

令和5年度 会派調査研究報告書

(視察先1箇所につき1枚)

会 派 名	壮志会	
事 業 名	先進地視察 栃木県小山市のスポーツ施策について	
事 業 区 分	①研究研修	②調 査

1 上田市での課題と研修・調査の目的

長野県では令和10年に信州やまなみ国体があり、上田市では今年度スポーツ都市宣言を予定している。このため、いずれも実施されたスポーツの先進地である小山市の取り組みを視察し、当市のスポーツ振興等の検討を進めたい。

2 実施概要

実施日時	視察先	栃木県小山市
令和5年7月6日(木) 午前9時半～午前11時半	担当部局	生涯スポーツ課 落合和幸課長 総合政策課 篠崎 武主幹

1 市の概要

小山市は、昭和29年小山町と大谷村が合併して市政を施行し、今日まで昭和38年の1町1村及び昭和40年に1町と合併して現在の小山市となる。当市は、栃木県の南部に位置し東京から60kmの距離にあつて、JR宇都宮線、水戸線、両毛線、さらに東北新幹線のハブ駅として発展してきた。また、国道4号、新4号国道及び国道50号が交差する交通の要衝地であり、北関東の拠点都市として人口16万6千人余を擁する県内第2位の都市である。

市の中央を南流する思川を境に西部は県内有数の米作地帯、東部の台地は市街地や工業地帯のほか、野菜、果樹、花き等の農業が発展し、結城紬の主産地ともなっている。

2 市のスポーツ都市宣言（平成26年6月26日）

私たち小山市民は、市民ひとり1スポーツを推進し、生涯にわたって、スポーツに親しみ、スポーツを愛し、スポーツを通じて、体力の向上と健康の増進を図るとともに、市民が誇れるスポーツのまちづくりに取り組み、地域を明るく元気にし、市民がひとつになることを目指して、ここに「スポーツ都市」を宣言します。

- 1 スポーツに親しみ、たくましい心と体をつくります。
- 1 スポーツを愛し、市民が誇れるスポーツのまちを目指します。
- 1 スポーツを通じ、地域を明るく元気にし市民のきずなを深めます。

3.視察事項

「小山市のスポーツ施策 スポーツ都市宣言 いちご一会とちぎ国体の取組について」

(1) スポーツ推進基本計画について

①経過

- ・平成 21 年度～25 年度 第 1 次小山市スポーツ推進基本計画
- ・平成 26 年度～30 年度 第 2 次小山市スポーツ推進基本計画
(スポーツによるまちづくりを強く推進するためスポーツのブランド化を推進)
- ・令和 1 ～5 年度 第 3 次小山市スポーツ推進基本計画
(スポーツツーリズムを施策に加え、交流人口の拡大を図る)
- ・令和 6 年度～10 年度 策定中

【特徴】

市民アンケートを実施し、スポーツのもつ多様な意義と役割を確認した上で多くの市民が感動を分かち合い、お互いに結びつき、支え合うまち、スポーツを通じて健康と活力を育み、生き生きと生活し交流できるまちの実現を目指している。

②基本計画に基づく主な内容について

- ・第 2 次計画
2017 年 栃木県民球団「栃木ゴールデンブレーブス」、県内初女子野球チームエイジェックが当市を拠点に活動を行う。
2018 年 小山市開運スポーツ合宿所の開設
- ・第 3 次計画
2021 年 市立体育館オープン
出前講座の実施
スポーツツーリズムの取組
- ・第 4 次では、弓道場、サッカー場等の整備や新感覚スポーツへの対応を検討中。

③スポーツ人口の推移について

- ・第 2 次計画 運動スポーツを行う割合は 53.7%
- ・第 3 次計画 “ 57% (増加傾向)

④スポーツ振興におけるステージごとの取組について

- 1 保育園等 2 小学校 3 中学校 4 成人 5 高齢者 6 その他
- ・プロスポーツ選手による各種教室 (2、3)
 - ・ニュースポーツ出前講座の実施 (1～6)
 - ・おやまっこ体操 (6)
 - ・みんなで歩け歩け運動 (2～5)
 - ・機能訓練がある出前講座 (6)
 - ・栃木ゴールデンブレーブス市民デー (1～6)
 - ・スポーツボランティアの機会提供 (4～5)
 - ・小山スポーツマガジンの発行 (2～3) など

⑤スポーツ都市宣言の経過と効果について

平成 26 年 6 月栃木県内初の「スポーツ都市宣言を」を行い、「市民ひとり一つのスポーツ」を目指し、スポーツを「小山のブランド」としてスポーツによるまちづくりを推進。効果として、スポーツ人口が増え、健康状態が良いと答えた人が 8 割にも達する。また、全国や世界で活躍する選手が出てくるなど、一定の成果が見られる。

- ・オリンピック選手 水泳の萩野公介、柔道の海老沼匡
- ・プロ野球選手 江川卓、広沢克実、大山悠輔

⑥スポーツ振興を図る取り組みについて

栃木県は、全国的規模のスポーツ大会やスポーツ合宿を誘致することを目的に「栃木県スポーツコミッション」の設立に向けて準備している。小山市もスポーツ合宿所等があるため加盟を前提に取り組む。

- ・サイクルフェスタやマラソン大会など全国の愛好家が一堂に会するイベントの開催。
- ・スポーツ推進委員との連携を図り、出前講座の開催。
- ・プロスポーツ団体との連携協定の締結
(栃木ゴールデンブレース、栃木サッカークラブ、宇都宮ブリッツェン、宇都宮ブレックス)

⑦市外からの参加について

- ・スポーツイベントの開催は積極的に取り組んでいる。

⑧スポーツと観光との連携を図るための事業について

- ・昨年実施した「サイクルフェスタ」は青森県から兵庫県まで全国から参加があった。

⑨スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブの活動について

- ・スポーツ少年団登録者数 3, 180 名
- ・総合型地域スポーツクラブ 1 団
独自の事業は、トライキャンプ(1泊2日)、交換会、リレーマラソン(42.195)など

⑩スポーツ施設の指定管理について

- ・文化活動に親しめる環境整備を行う。
- ・スポーツ協会では行っていない。体育施設は、令和 2 年度から 5 年間ミズノスポーツサービス(株)が行っている。

⑪スポーツ協会における市長の立場について

- ・協会の名誉会長

⑫スポーツ協会への市職員の派遣について

- ・国体開催の令和 4 年度までは派遣していたが現在は行っていない。

* 視察先の写真等がある場合は添付のこと

⑬温水プールの利用促進について

- ・県外、特に埼玉県方面からの団体利用が多い。案内通知を送付して利用促進に努めている。令和元年度76,654人、令和4年度24,993人(コロナの影響で減少しているが、昨年から回復傾向となっている)

⑭プロスポーツへの関わりについて

- ・当市では、栃木ゴールデンブレース(野球300万円)、栃木sc(サッカー200万円)、宇都宮ブリッツェン(自転車120万円)地域支援パートナー連携協定を締結して支援している。

⑮中学校の部活動について

- ・平成31年「小山市部活動等の在り方に関するガイドライン」を作成し、児童生徒が生涯にわたって運動や芸術を豊かに生活に取り入れ、資質・能力を育むための部活動の在り方を示した。現在、「小山市地域クラブ活動推進協議会」を設置し、土・日曜日の地域移行に向けて検討を行っている。

⑯国体の開催について

- ・国体PR用ポロシャツ3色1500枚作製し、職員・議員が着用。
- ・国体PR用ネックストラップを作製し、関係者に配付。
- ・国体カウントボードを小山工業高専の学生が製作し、4台設置。
- ・国体PR用階段装飾等は企業協賛等を活用し、駅・競技会場等の階段に行う。また、公民館のエレベーター装飾、公共施設等に横断幕を設置。
- ・とちぎ国体が環境に配慮した大会を目指したため、識別用ジャンパーに再生ペット素材を使用した。
- ・花いっぱい運動で小中学校が育てた花プランターにより競技会場を装飾。
- ・都道府県別応援のぼり旗を学童保育クラブ、中学校や大学美術部等が制作し、競技会場に設置。また、希望者には記念として渡す。
- ・市内銘菓を配布。また、市内高校が開発に携わったカップアイスを生徒の協力で配付

(まとめ)

- ・小山市ではスポーツ推進基本計画を着実に進める中でスポーツ都市宣言を行い、【市民ひとり1スポーツを】推進したことでスポーツ人口が増え、健康状態が良いと答えた人が8割にも達するという波及効果を生んでいる。スポーツの良さを競技だけでなく、まちづくりや健康づくりなど多方面に影響を与える方策の必要性を強く感じた。当市のスポーツによるまちづくりの検討を進めてまいりたい。



